

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501107		
法人名	社会福祉法人 室蘭天昭福祉会		
事業所名	グループホームフォーレスト柏木		
所在地	〒050-0064 室蘭市柏木町45番10号 (電 話) 0143-58-3200		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	20人	常勤 18人, 非常勤 2人, 常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	10,000～ 円
敷 金	有 (45,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 食費に含む
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (2月 19日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.2歳	最低 73歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄室蘭総合病院、下地内科外科医院、太平洋歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、自然あふれる広大な敷地の中に位置している。併設するパークゴルフ場は地域住民に開放され、事業所の利用者の交流が図られるなど、地域に溶け込んだ運営を行っている。事業所内の環境は、木のぬくもりが感じられる暖かい家庭的なしつらえとなっており、職員も利用者のペースに合わせた対応をしている。利用者の表情も穏やかで明るく、高い品質のサービス提供を実践している事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回調査では、トイレ内の人目につく場所に、個人名を記入した紙おむつが保管されていた点など、個人のプライバシー保護について指摘されていたが、現在は改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニット別にそれぞれ評価を行っている。評価結果は日ごろのケアサービスを振り返る機会であるという意識を持って、サービスの改善や向上に活かそうとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族代表、町内会代表、地域包括支援センター職員、施設職員により2ヶ月に1度定期的に開催している。会議では運営内容の報告を行い、各出席委員から意見を求めている。さらに、外部評価の結果なども報告し、サービス改善や向上の取り組みの方策についても意見を求めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関ホールに「ご意見箱」を設置して、家族が匿名で意見を投函できるようにしており、さらに、家族の来訪時には、意見を聞くことに努めている。出された意見は会議で話し合い、必要な方策については具体的に実現するように取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、利用者は職員とともに町内会行事に積極的に参加している。また、敷地に併設しているパークゴルフ場を住民に開放し、地域住民と積極的に交流している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域の中で心和む生活を送る」という、地域密着型サービスとしての運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はスタッフルームに掲示し、ミーティング等で管理者、職員が常に確認し、共通理解をもつよう取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。また敷地内に併設しているパークゴルフ場を地域住民に開放し、利用者とのふれあい、交流の機会を積極的に設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価はサービス向上の機会ととらえ、その結果を運営推進会議に報告している。さらに、玄関ホールに誰もが閲覧できるよう冊子にして置いてある。なお、指摘事項は改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価や外部評価の結果を報告し、具体的な対応の方策について意見をきいている。さらに、事業所の運営内容も報告し、各委員からの意見を、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の結果については、市の担当課に必ず情報提供している。日ごろから市とは円滑なコミュニケーションをとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に、広報誌を送っており、この際に、預かり金の収支報告書も送付している。家族来訪時には、利用者の暮らしぶりをできるだけ詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに「ご意見箱」を設置して、匿名でも意見をあげることができるようにしている。家族の来訪時などには、積極的に意見を聞いている。最近では家族の意見を取り入れ、職員の顔と名前が一致できるような紹介ボードを廊下に掲示した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者及び職員は、ユニットに関係なく状況を把握していることが大切だと考えているため、ユニット間の職員の異動はあるが、利用者への影響は少ない。また、異動の際には、広報誌等で周知をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づく施設内研修を定期的実施している。また、外部研修には職員を交代で偏りなく派遣している。受講した内容については会議等で必ず伝達し、それらの記録も整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会が組織されており、市内全グループホームが参加している。運営推進会議を同じ会場を借りて同時に実施しているほか、定例で合同研修会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、昼食を一緒に食べながら一定時間事業所で過ごす入所体験を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる能力を大切にする意識を持って、日々の生活の中で協働しながら和やかに生活を送ることができるよう支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前の面接等により利用者の生活習慣を把握し、個人の習慣や希望を採り入れた生活ができるよう、常に意識している。意向が表明できない利用者も、家族から過去の生活ぶりや希望を聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき課題を抽出し、長期及び短期の目標を示した具体的サービス計画を策定している。計画の策定にあたっては、利用者の意向や、家族の意見を採り入れて反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的および利用者の状況の変化に応じて随時、評価に基づき計画の適切な見直しを行っている。なお、見直しの際には、必要に応じて本人または家族も交えた話し合いをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の利用者の事情や希望に応じた柔軟な通院支援を行っている。また、外出や自宅への外泊などの支援を個々の事情に対応して行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じ、利用前からの「かかりつけ医」への受診を柔軟に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針と看取り介護マニュアルを整備し、入所契約時に利用者または家族に説明している。医療連携加算算定施設で看護師の非常勤配置があり、医療機関の協力も可能である。希望に応じて事業所での終末期の対応が可能となっており、昨年看取り介護の実績が1件あった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者の尊厳に配慮し、誇りやプライバシーを傷つけないような態度や言葉かけにより対応している。また、個人情報保護のマニュアルも整備されており、適切な対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れや日課を優先するのではなく、一人ひとりの体調やペースに配慮しながら支援を行っている。買い物や外出なども、希望や思いに沿う形で実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに沿ったメニューが作られており、食事の介助も各テーブルで職員と一緒に食事をしながら、さりげなく必要な支援を行っている。食べるペースも利用者に応じてゆっくり行っている。準備や後片付けが可能な利用者は、職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であるが、職員の体制などから、入浴時間を固定している。また、現在のところ夜間の利用のニーズがないため、夜間の入浴支援はしていない。	○	今後、夜間の入浴希望にも応えられるよう工夫を行い、利用者より希望があった場合には、夜間の入浴支援が実現されることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活歴を把握し、利用者のできることやしたいことを見つけ、日常の役割を持てるように支援している。できなくなったこともあきらめず、一部を手伝いながら継続できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	随時、希望に応じて、外出支援を行っている。日程を特に決めていないときも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関にも鍵をかけていない。日ごろから鍵をかけないケアを行っており、開放的な空間を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に訓練を行っており、1回は総合訓練、1回は夜間訓練を行っている。運営推進会議においても地域住民への災害時の協力要請を行い、避難場所も確保している。敷地に隣接する同一法人事業所全体での協力体制もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の他事業所の管理栄養士により、定期的に献立内容を確認してもらいながら必要なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々とした清潔な居住空間で、自然光も十分に取り込まれ、居間の広い窓からは四季の移り変わりが眺望できる。不快な光や臭いもない。玄関のセンサーチャイムの音も時折聞こえるが、鍵をかけない支援のために工夫を重ねて設置したものであり、見守りと併せて使用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が使い慣れたなじみの家具や装飾品が持ち込まれ、利用者個人にとって居心地のよい個性ある空間となっている。		

※  は、重点項目。